

令和7年度すくすく泉事業 事業計画書（案）

（団体名：NPO 法人 いずみの会）

1 運営理念等

【運営理念】

- 「保育」、「一時預かり」、「子育てひろば」を一つ屋根の下に、地域子どもたちが地域みんなに愛されて育つ場をつくります。
- 樹木に囲まれた自然空間や泉文庫の豊富な絵本等、地域で大切に受け継がれてきた財産を活かして子どもの感性を育み、そこで過ごす子どもにとって、楽しく豊かな原風景となる場をつくります。
- 地域の中の多世代の交流を大切に、子育てを通してみんなが豊かな時を過ごす場をつくります。
- 子育ての不安感、負担感、孤立感を軽減し、相談しやすく、様々な子育て情報を得られる場をつくります。

【令和7年度に力を入れて取り組みたいこと】

【子育てひろば】

- ・令和7年度は、「**多様な子育てに届く支援を地域と共に**」をテーマにする。すくすく泉だけではできないことも、地域とつながることによって、より当事者に届く支援になるのではないか。そのために今まで以上に力をいれて、地域とのつながりをつくる努力をしていきたい。
- ・地域の方たちとの親交を広げていく。地域に子育て応援の輪を広げていく。同時に地域子育て応援マークをひろめる活動をする。
- ・他施設、他機関との連携を深めて、的確なサポートにつなげていく。
- ・インクルーシブなひろばにしていくために、スタッフの研修、また「すくすくタイム」の内容を工夫して、子どもの発達理解、相談援助を進めていく。
- ・中学生と赤ちゃん（親子）のふれあいの機会をつくりたい。
- ・開所10年を過ぎ、次世代への理念の引継ぎ及び新しい感覚を生かすことに力を入れていく。

【一時預かり】

- ・令和6年度から始めた多様な他者との関りの機会の創出事業「はーとぷらん」を引き続き行う。月に1度の面談の充実を図り、定期利用の効果を高める。
- ・引き続き、親子が安心して利用できるように研修を重ね、スタッフの質向上を目指す。また、預かりを通して知り得た親子の状況については、秘密保持を原則としながら、適切に情報共有し対応する。
- ・保育士配置基準を満たすために、スタッフの資格所得、有資格者採用、シフト組みに力を入れる。

【小規模保育事業】

- ・この園の特徴や良いポイントをもっとPRして、新入園児の確保につとめる。
- ・新規採用者も加わった4人の常勤保育士と非常勤保育士でより安定した運営をする。
- ・引き続き、常勤・非常勤保育者が情報共有をする機会を折に触れて作っていく。今まで通り10分ミーティングや研修、スタッフミーティングなどを活用し、どのスタッフがかかわっても子どもに合わせた保育ができるようにし、保育の質を確保した一体感のあるチームづくりをしていく。
- ・昨年度の保育を活かして一人ひとりに合ったかかわりについて深めていく。
 - ＊どんな時も自分を受け止めてもらえる安心感を基盤に、感情の育ちと自我の拡大を保障し、体験の中で自ら気付くのを待てるよう日々の積み重ねと長期的な見通しを大事にする。
 - ＊子ども一人ひとりの感覚や情緒、身体面、言語や認識等の成長発達、特別な配慮が必要なニーズ等を細やかに読みとる。
 - ＊子どもが自らやりたいことや場所を選び、やりきって満足して終わるまでの時間をできるだけ確保し、見守れる体制をつくる。
 - ＊異年齢集団の中でもそれぞれに応じた保育を実現するための空間・時間・場所・人を含めた環境づくりに工夫をしていく。
- ・研修の充実
 - ＊引き続き毎月のアドバイザーの視察や会議、テーマをもった園内研修、またオンラインを活用してキャリアアップの研修や、市主催の全体研修など、外部から学ぶ機会にも積極的に参加し、学問と実践の両面から保育の質の向上をはかっていく。
 - ＊乳児の食育について、保育士と給食スタッフが共に学び考えていく機会を作る。
- ・保護者との信頼関係を結びながら多方面から支援する。
 - ＊保護者の気持ちに寄り添いながら、成長の過程や今後の見通しが持てるようにし、日々のかかわりについて一緒に考えながら子育てを支えていく。
 - ＊「保育士体験」を通して、我が子だけでなく、他の子どもたちの様子や子ども同士のやりとり、保育士が子どもにどのように関わっているか？など、身近で体験してもらい、一緒に子育てしていく。
- ・地域の子育てや小中学校との関係
 - ＊中高生対象の職場体験の他に、小学生や中学生のボランティアの受け入れを企画する。
 - ＊卒園児が遊びにくる機会なども意識し、実家のように遊びに来ることができ、親子がいろいろな地域の人もつながれる機会をつくっていく。
- ・近隣の園との連携
 - ＊近隣の園とはすくすく公園泉公園でよく顔を合わせることが多いので、お互いの園の保育観も大切にしながら、声を掛け合いながら共に子ども同士を見守っていく様にしていきたい。また、機会があれば、合同研修会などを作って勉強会などを作る。
 - ＊例年のように、お店屋さんごっこ、芋ほり、人形劇なども声をかけあって交流していきたい。

【中長期目標】

・3事業の連携で質を高める

3事業がそれぞれ質の高い事業を展開すると共に、各事業の特色を活かして連携することで、利用者の多様なニーズに対応する。また、防災・防犯に関しては、3事業の連携により命を守り、安全を確保する。災害時には必要な事業のスムーズな復帰を目指す。

担当事業以外の事業に、実習として入る機会をつくり、3事業のさらなる連携のために理解を深め、いざという時にサポートに入れる体制を強化する。

・多様な子育てに対応できる施設にする

一人親、ステップファミリー、祖父母育児、外国出身、身体及び精神疾患等、アレルギー疾患等を有する保護者や子ども、配慮を必要とする様々な家族の形や子育てを支えるために、スタッフは、現状を知る努力をし、対応スキルを身につける。加えて、在宅勤務、長期育休などによる新しい生活スタイルや父親の育児参加、父親同士のコミュニケーションの機会の創出を念頭に置く。

・切れ目のない支援の一翼を担う

妊婦さんへのアプローチから始まり、乳幼児期にかかわった子どもたちが小・中学生になり、やがて自分たちが子どもを育てる側になっていく。育ちの過程にずっと地域に存在し、あたたかく見守るセーフティーネット、言うなれば“実家”のような場所になることをイメージしている。

・地域全体で子育てするための連携

今までにつながってきた地域の様々な物的、人的資源を大事にしながら、更に連携を深める。新しい地域連携を模索したい。

・中学生と子育て世代との触れ合いプログラム

自身が「子ども」でもあり、また「親」になる姿をイメージでき始める、そんな多感な時期に、赤ちゃんという存在や、親になることの大変さや大きな喜びを伝えることができる機会をつくりたい。子育て世代（利用者）にしてみれば、普段かかわりの薄い中学生と話をし我が子の将来についてイメージしたり、子育て中でも、地域に役立つ活動ができることを知る機会となる。

・育児参加促進

土曜日のファミリープログラムの充実により、父親の育児参加や、子育ての知識を得る機会、地域コミュニケーションの機会、敷居の低い相談の機会などをすすめ、それらをきっかけに父親の日常的な利用を増やしていく。

・支援者同士の連携

近隣の子育てひろばや保育施設、各専門機関や行政などと、親子を真ん中にした顔の見える連携を進める。

・運営体制の安定化と次世代へのつなぎ

支援を途切れさせないために長いスパンで安定的に運営していくことを目標に置く。そのために、現スタッフの理念を引き継ぐ次世代スタッフの確保と育成に引き続き力を入れる。

2 事業内容

NO	項 目	内 容
1	<p>地域子育て支援拠点事業「子育てひろば」について （「泉文庫」の管理・活用方法、公園を活用した展開等を含む）</p>	<p>日常のひろば</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めて利用する親子に対しては、利用者を含め、みんなであたたかく迎え入れることを大切にする。また、予約して参加できるプログラム「はじめてのひろば」で、第一歩を安心して踏み入れられるような仕組みをつくっている。 ・飲食を共にすることで、他の子の様子を見たり、親同士が話す機会をつくり、食の悩みの解消につなげる。 ・利用者を“お客様”にせず、この場を一緒につくる仲間として意見を聞き、取り入れ、時には協力してもらう。 ・父親が遊びに来て違和感のない場づくりをする。 ・プログラムの内容により、オンラインやデッキ、公園も活用する。 ・傾聴と情報共有を軸にし、利用者それぞれの状況や悩みなどに、スタッフみんなで気を配り、言葉かけや働きかけを考える。「技術を持ってホッとできる空気感をつくる」を常に意識し、研修や会議を重ねながら運営していく。 ・いずみ文庫をいつでも手に取れるようにし、幼児向けや大型絵本をくわえながら、読み聞かせや普段の楽しみに活用していく。絵本講座などで赤ちゃん絵本の楽しみ方を広める。 ・各月齢に対応したおもちゃ、過ごしやすい環境の工夫をする。わらべうたや手遊び、工作などを月替わりとし、日常に変化をもたせる。親子が一緒に季節や行事を楽しむきっかけづくりをする。 ・発達に不安があるなどで、ひろばの利用をためらう親子も一緒に楽しめホッとできるひろばをつくるため、すべての親子に対して子どもの発達の知識を得るきっかけになるプログラムを継続して実施する。 ・利用者と関わる中で必要に応じ情報提供や、各専門機関と繋ぐ役割をもつ。 <p>プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期プログラム <ul style="list-style-type: none"> *手遊び（毎日・内容は月替わり） *わらべうた（週1回） *FuBoretch/ストレッチ（週2回） *オンラインヨガ（月1回） *読み聞かせ（月2回） *ベビーマッサージ（月1回） *助産師による計測と相談（月1回） *誕生会（月1回） *はじめてのひろば（月1回） *保健師のいるひろば（月1回） *すくすくプレイ（週1回）発達を促す遊びの提案、相談会、相互理解 *すくすくトーク（週1回）現役保育士に子どもの発達等について相談できる *Tomony（月1回・土曜日） <ul style="list-style-type: none"> ・父親の育児参加促進プログラム。子育てに役立つ講座では、子ども理解、不安の軽減などを目的とする。また、家族で楽しめるイベントでは、子どもが父親と共にひろばで過ごす時間や他の親子と知り合うことを目的とする。

＊TomonyDay（月1回・土曜日）

・家族まるごと、育児参加促進プログラム。利用者同士が自己紹介をし、一緒に手遊びや絵本を楽しむ。防災について話し合う時間もある。

・不定期のプログラム

＊食についての講座 ＊幼稚園、保育園の保護者の話を聞く会 ＊保活の基礎知識 ＊パパの子育て応援講座 ＊親の癒しプログラム（ヨガやマッサージなど）など。

泉文庫

日常的に楽しむほか、月に2回の読み聞かせにも活用。赤ちゃん向け絵本や、大型絵本も足しながら、絵本に触れる機会をつくる。また、手軽に手に取れる保護者向けの本や外国籍の親子向けに英語の絵本のコーナーもある。

また、Tomonyで読み聞かせ講座を行い、絵本に親しむきっかけをつくる。

子育て相談

保健師さんのいるひろば（月1回）、保育士さんのいるひろば（週1回）で、ひろばで子どもを遊ばせながら、相談ができる。

日常の愚痴や小さな不安や悩みは、スタッフや利用者みんなで、その場の話題にしていく。

まず私たちが専門家と顔の見える連携関係をつくることで、保育士、助産師、保健師、栄養士、作業療法士などへの橋渡しとなり、必要な人を安心・的確につなげていく。

個別に相談したい場合は、玄関やカフェコーナー、時には公園も活用し、その都度話しやすい場で他者から自然なおしゃべりに見えるように配慮する。オンラインでも相談窓口を設けている。

知り得た個人情報には、スタッフ全員が知る、ひろばスタッフだけが知る、コアスタッフだけが知るなどと、ランク付けをして個人情報を守る。

利用者の活動

「ゆずっちょ」（譲ります、下さいの掲示版）で、不要になった子育てグッズを譲ったり、購入前に希望を出したりできる。直接ひろばで会って受け渡しをすることで、利用者同士の交流も生まれている。

特技を持つ利用者、いい空気感のキーマンとなりうる利用者、ときには馴染みにくい利用者の特技なども活用して、地域情報の収集や、講座などに展開させていく。利用者がサービスされる側だけでなく主体となって活躍し、支える側になる経験もでき、ともに大切な場をつくっていけるようにしたい。

公園の活用

緑ボランティアとの連携により、貴重な自然環境を守り、子育てに活用していく。季節を感じ、のびのびと遊べる公園は、子どもたちの原風景となる。

子どもたちが水やりや花植え体験もできるよう、道具を用意。柿の実、栗、くるみ、かりんなどを拾い、イメージを膨らませて遊びがひろがる。

16時に閉所後16時半まで公園用のおもちゃを使えるようにしている。「終わりだからさようなら」ではなく、一旦、公園遊びをする時間を作ることで、子どもたちが満足し、納得して帰っていける。また、この時間帯は小学生がい

		<p>たり、公園のみの利用者がいたりするので、自然と交流が生まれる。</p> <p>こらぼのコミセン親子ひろば（武蔵野市共助による子育てひろば事業）</p> <p>すくすく泉のノウハウを活かし、中町集会所で月2回開催の親子ひろばを開催。親子が安心して楽しく過ごせる場を展開。「すくすく泉」の周知・利用にもつながり、逆に「すくすく泉」利用者の遊び場の選択肢を増やす。コミセンを利用することで、地域の方、他団体との繋がりも深めることができる。</p>
2	一時預かり事業について	<p>「一時預かり」は、今まで通り以下の3点を重要と考え運営する。</p> <p>1：命を守り無事にお返しする。 2：安心して保護者を待てるような子どもの心の安定。 3：安心して子どもと離れていられるような保護者からの信頼。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 周辺には、不定期に短時間子どもを預かってもらえる人間関係がない地方出身や核家族の親が多く存在する。 親の傷病、冠婚葬祭、第二子出産、上の子の行事、または精神的肉体的負担の解消のためにも、安心して短時間から預けられる場として年間200人ほどの登録がある。主な利用は1～2歳児だが、いざというとき小学校6年生まで利用できるため保険的安心感もある。登録にはこども商品券も使用可能。 ・ ひろばで預かりの様子を見たり、預けた経験のある人の話が聞けたりすることが、利用への心理的ハードルを下げる。理由を問わない一時預かりは「何か深い事情がある」時も、「リフレッシュしたい」時も、同じように利用ができる。親が負担感を増幅させ、虐待等につながることを未然に防ぐ役割もある。 ・ 一時預かりは子どもが不安定になりがち。スタッフは他人の子どもを預かるという重大な責務を負うため、子育て経験による母親感覚の良い部分を活かした上で、今後も情報交換や内部・外部の研修の受講、資格取得を推進していく。 ・ 令和6年度より実施の「多様な他者との関わりの機会の創出事業」（はーとぶらん）では、保育園や幼稚園などに属していない親子が定期的に一時預かりを利用することで、多くの人と関わり、大切にされながら育つ機会をつくる。また保護者にとっても家族以外の育児の相談相手ができる。

3	小規模保育事業について	<p>保育所保育指針に基づき作成した園独自の『全体的な計画』を土台として、0～2歳児11人という少人数の良さを活かした異年齢保育の実施。</p> <p>人権の尊重、個人情報保護、説明責任、苦情解決に真摯に取り組む。「ひろば」との連携による子育て支援、職員の質の向上をはかる。</p> <p>基本理念・基本方針</p> <p>～一人ひとりの健やかな成長発達に寄り添う保育～</p> <ul style="list-style-type: none">●一人ひとりの子どもを愛し、尊重します。 子どもが最善の利益とその権利を尊重され、心身ともに健康で、未来をつくり出す力の基礎が育つよう、チームワークを活かして保育する。●乳幼児期を豊かにするために家庭と連携します。 人間性の土台が育つ大事な時期としての認識や子育ての喜びを共有し、今を豊かにするために保育士と保護者が連携していく。●地域から生まれ、子どもを中心に地域がつながり、支えあう関係づくりをめざします。 地域の自然や様々な物的・人的資源、文化を保育に活かす。また、保育を通して多世代がつながりを深め、地域全体の福祉や家庭支援に寄与していく。 <ul style="list-style-type: none">・子ども一人ひとりがあるのままと自分の出せる安心感を土台に、発達に応じて様々に表現し、自分で決めることを大事にしたい。保育者は子どもの心の声をよく聞き取れるよう努める。そのためにも、否定語、禁止語、命令語を極力使わず、共感的、応答的にかかわる保育を更に深めていきたい。 <p>安定した保育</p> <ul style="list-style-type: none">・4月から新規採用者を加え安定した保育体制をつくっていく。保育に入る常勤保育士3～4人を中心とし、非常勤スタッフや給食スタッフなど、様々な大人がかかわる良さを活かす。また、会議や事務などにおいては、効率的かつ効果的に進められるよう、仕事を整理し役割分担をする。ひろばや一時預かりスタッフとも声かけしながら、すくすく泉全体のよいチームワークを目指す。・情報共有と保育の質の向上のため、日々の15分ミーティングや日誌の共有、ミーティングや個人案会議などの活用、年間を通したテーマを決めて、具体的な場面での子どもの読み取りや自分のかかわり方について、スタッフ同士で様々な意見を出し合って、保育の軸を共有していく。・専門性の向上では、内部研修と並行して、外部研修への参加も増やし、受講した内容をミーティング等で共有して様々な分野の知識を学んでいきたい。・引き続き、アドバイザーの先生による月1回の視察と「ひろば」と合同の現場会議を通して、子どもの成長について継続的に読みとりとかかわりを重ねる。更に、「ひろば」や「一時預かり」の様子も共有し家庭で保育する保護者の現状も視野に入れてすくすく泉としてのスタンスを共有して、日々の保育につなげていく。・家庭との連携において、最近子どもとどうかかわってよいかわからない保護者が増えていると感じる。子育て初心者でも、一緒に育てる安心感が持てるようにし、気持ちや困っていることに寄り添いながら、情報共有や成長を喜びあう関係づくりをする。また、保護者同士のつながり、おたよりや保護者むけの図書「おうち文庫」など、様々な情報を得やすくし、自分の子どもに合った子育てを模索することを支えていく。
---	-------------	---

		<p>特色ある保育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「一時預かり」や「ひろば」が併設された複合型の保育施設の特色を活かして、地域の親子や中高生、高齢者ボランティアという多世代との触れ合いの機会を増やす。保育の専門性を活かしながら、子育てをみんなで応援する地域づくりに貢献していきたい。今後広げていきたい活動を以下に挙げる。 ＊保育園の保育士がひろば親子向けに行う講座 ＊ひろば主催の講演会やイベントなどに保育園保護者が参加 ＊土曜日のひろばを保育園親子が利用することでの地域親子との交流 ＊赤ちゃんとのふれあい体験（プレママやその家族対象） ＊ミニイベントや日常を通した園児と地域の親子とのかかわり ＊元保育士による人形劇団の活躍や、利用者との交流ができるプログラム。 ＊中学生の職場体験や、小中高生の保育ボランティアを受け入れる。若い世代が乳幼児への理解を深めたり、その親と話すことで、育てること、自分が育てられたことを振り返るなど、様々なことを感じ考える機会になるよう工夫していく。 ・すくすく泉公園の豊かな自然環境を生かした保育 <ul style="list-style-type: none"> ＊感覚が育つこの時期に五感を通して自然を楽しむ。 ＊発達に応じて個々に身体を動かすことの楽しさや挑戦していく楽しさを感じられるようにし、意欲、粘り強さ、自信などが育つようにする。また、トライ＆エラーの中で自分の力を知り安全を考えて遊ぶようにする。 ・近隣保育園との連携 <p>まちの保育園吉祥寺、武蔵野赤十字保育園とは、行事や研修などで今後も連携していく。また、すくすく泉公園の利用において、色々な園と話し合いながら、一緒に遊ぶ機会を、良さとして活かす工夫をしたい。様々な連携の形で、地域で子どもを育てていく関係づくりをしていく。</p>
4	上記3事業の相互の関わり方や、その他について	<ul style="list-style-type: none"> ・3事業のどれを利用しても、利用者に運営理念が伝わる一貫した対応をする。 ・スタッフが資質・課題解決力向上のために、学びや話し合いの機会を内・外にもつ。専門家による講座や連携園との研修会、ミーティングにおけるワークショップ等。また、外部有料研修に参加の場合の補助金制度を設けている。 ・3事業は分離して運営されているものではなく、それぞれの専門性を軸にしながらか交流の機会を持っている。それぞれの利用者に有益な支援を複合的に考え実行している。 ・常勤スタッフが必要に応じて運営会議をし、3事業全体を考えながら進めていく。 ・日常的に3事業の利用者が公園を利用している。そこに近隣の保育園や小学校、また地域の方々も加わり幅広い多世代交流がうまれている。 ・3事業、もしくは2事業が、一緒にプログラムを企画し実施する。 ・3事業のスタッフは、基本的には各事業に専従しているが、研修やミーティングへは、事業を越えての参加が可能である。お互いにいつでもサポートができるスタッフを増やすことで、何かあっても支え合える体制をつくっている。

		<ul style="list-style-type: none"> ・防災・防犯については3事業が連携した訓練を実施し、問題点の共有と対処方法を話し合うようにしている。 ・低月齢児や妊婦対象の保育園体験、乳幼児のふれあい体験かど、保育で実施しているプログラムに参加してもらうことにより、早期のひろば利用にもつなげる。また、ひろばで過ごす親子が保育の活動に触れる機会もつくる。
5	地域参加・参画方法 (中高生や高齢者の事業参加や、地域ボランティアのイベント参加、地域住民が団体の会員となり保育を担う等)	<p>この施設は、「子育てを中心に 地域みんなで 未来をつくる場所」であると考えている。</p> <p>「人格形成に特に大切な乳幼児期の子育てを、親だけに負担をかけるのではなく、親子を地域みんなで支えていく。そうして育つ子どもたち、安心して子育てをした親たちが、やがてこの地域の未来をつくる」との考え方のもと、様々なかたちで地域とのつながりを大切にしていける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度も地域で以下のような取り組みを進める。 <ul style="list-style-type: none"> *ボランティア「葉っぱさん」(地域のどなたでも、自分のできること、したいことを登録でき、それに合わせてこちらからお手伝いをお願いする) <ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせ・手作りおもちゃ作成・お花の入れ替え・草むしり等 *地域に積極的に向かい合って行ってすくすく泉の活動を知ってもらう。 *小中高生ボランティアの受け入れ。 *中学生の職場体験の受け入れ *公園利用者(高齢者、小学生など)との積極的な関わり。 *誰もが参加できるオープンなプログラム(季節の行事、コンサート等) *高齢者と子育て世代の交流の場「昔遊びの会」「高齢者施設訪問」 *孫を連れての、祖父母の利用の積極的受け入れ *地域の人を職員として起用。 *NPO会員や寄付等で運営を支える *朝のゴミ拾い、緑ボランティアに参加して公園を整備する <p>もともと泉幼稚園跡地を利用するにあたり、多くの地域の方の思いや願いがあった。その方たちは、あたたかく、時に大変厳しい目で、この施設がどうなっているのかを見守り、支えようとして下さっている。</p> <p>私たちは主に親子ひろばを活用し、こうした地域の方たちとのつながりを大切にし、深めることにより、多くの親子を地域につないでいく、という役割を担っている。</p> <p>地域子育て応援マーク活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てを見守る側がつけるマークを継続して地域に広める。地域に子育てを肯定的に見守る意識をひろめる活動を続ける。チャーム、シール、缶バッジなどを作成して周知活動をする。 <p>オレンジリボン活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オレンジリボン活動に参加。虐待防止のキャンペーンへの協力。

3 施設内容・内部体制

NO	項 目	内 容		備 考
1	開 設 時 間	小規模保育事業	7:30～19:00(基本保育時間 8:30～17:00 の中で 8 時間を個別契約) ※満 1 歳児未満は 18 時まで	基本時間内のうち 8 時間での短時間保育、それ以外は延長保育となる
		一時預かり事業	基本 8:30～17:30 夜間 17:30～19:00	利用時間は最長 6 時間 預かり時間は徐々に緩和する予定
		ひろば事業	10:00～16:00	
2	開 設 曜 日	小規模保育事業	月、火、水、木、金	保護者会などは休日に開催することもある
		一時預かり事業	月、火、水、木、金、土	
		ひろば事業	火、水、木、金、土	
3	休 日	小規模保育事業	土、日、祝祭日、12/29～1/3	
		一時預かり事業	日、祝祭日、12/29～1/5、8/13～15	その他臨時休
		ひろば事業	日、月、祝祭日、12/29～1/5、8/13～15	その他臨時休
5	施設利用対象者	小規模保育事業	市内在住の生後 57 日目から 3 歳まで (当該年度において 4 歳に達する児童を除く)	
		一時預かり事業	市内在住の 6 ヶ月から小学 6 年生まで	利用登録が必要
		ひろば事業	主に 0 歳～未就学児の親子(妊婦含む)、孫育ての祖父母等、保護者と一緒の子ども	利用登録が必要
6	利 用 料 金	小規模保育事業	小規模認可園の短時間保育の基準による	<ul style="list-style-type: none"> ●昼食代、おやつ代、夕方の捕食代、ミルク代が含まれる ●短時間認定外の延長は 15 分 200 円 ●希望者オムツ代日額 200 円 ●布団カバー、毛布カバー、防水シート、実費 ●写真はルクミー (ICT システム) から注文し実費
		一時預かり事業	<ul style="list-style-type: none"> ●メンバー利用 入会登録料 2,000 円 通常: 8:30～17:30 400 円/30 分 夜間: 17:30～19:00 500 円/30 分 ・0 歳児加算 100 円/30 分 ・延長(遅刻)料金 通常 250 円/15 分 早朝・夜間 300 円/15 分 ●ビジター利用 入会登録料 無料 通常: 8:30～17:30 500 円/30 分 夜間: 17:30～19:00 600 円/30 分 ・0 歳児加算 100 円/30 分 ・延長(遅刻)料金 通常 300 円/15 分 早朝・夜間 50 円/15 分 	

			● 定期利用（週 1 回） 8:30～17:30 4 時間まで 2,000 円／日	
		ひろば事業	無料	カフェ、おむつ実費。イベント参加費、講習会参加費などは必要に応じて徴収する
7	職員配置 (資格の有無も記載)	小規模保育事業	0 歳児 3 人に保育士 1 人 1 ～ 2 歳児 6 人に保育士 1 人 保育士資格のある補助者 1 人 ※小規模保育事業（A 型）の規定による	子どもの人数による変則シフト制
		一時預かり事業	0 歳児 3 人に保育士 1 人 1 ～ 2 歳児 6 人に保育士 1 人 その他所定の研修を受講した者を補助として配置	
		ひろば事業	ひろば専任スタッフ常時 2 名以上	(イベント時必要に応じて増員)
8	スタッフ 賃金 (時給等)	すくすく泉 施設長	すくすく泉施設長（常勤） 309,000 円(160h)	・ 専門職手当 10,000 円
		経理事務	事務（常勤） 268,500 円(160h)	・ 専門職手当 10,000 円
		小規模保育事業	保育施設長(常勤) 277,800 円(160h) 一般保育士（常勤） 主任 262,400 円(160h)/196,800 副主任 255,400 円(160h)/191,600(120h) リーダー 248,400 円(160h)/186,300(120h) ----- 保育士（非常勤） 1,330 円/時 栄養士（非常勤） 1,330 円/時 基準保育士・調理員（非常勤） 1,210 円/時	・ 専門職手当 10,000 円 ----- - ・ 給食責任者手当 8,000 円
		一時預かり事業	保育士有資格者（非常勤） 1,330 円/時	・ シフト組手当(1,500 円/1 日)
			資格無し（非常勤） 1,210 円/時	・ シフト確定後のキャンセルは 60%支給

		ひろば事業	ひろばリーダー(常勤) 248,400 円(160h)/186,300(120h) 保育士有資格者(非常勤) 1,330 円/時 資格無し(非常勤) 1,210 円/時	
	備考	社保完備／有給あり 処遇改善・キャリアアップ等の臨時支給 常勤月 120 時間勤務契約も可能		
9	年間開設予定日数	小規模保育事業	243 日 (2025 年度)	加えて土曜日に保護者会等あり。 (年間 3～5 日を予定)
		一時預かり事業	282 日 (2025 年度)	
		ひろば事業	242 日 (2025 年度)	加えて月曜日に講座あり。 (年間 15～20 日を予定)
	年間利用者数／1 日平均利用者数 (見込)	小規模保育事業	11 人	
		一時預かり事業	6 人	
		ひろば事業	35 人	